

北八ヶ岳 天狗岳登山報告

期 日 2010年2月16日(火)～17日(水)

参加者 石川誠 会友(砂川明久 松井 清)

行 動 2/16日(火) 高曇り

a m 7:00 発横須賀石川車で松井清氏(腰越) 砂川氏(藤沢)2名をピックアップし、相模湖から中央高速で須玉ICを下り、野辺山を越え松原湖駅構内に駐車、

現地は2、3日前からの雪や雨で国道141号線は路面は凍結していなかったが、駅からは、しらびそ小屋へ連絡し、稲子湯までの 迎えを依頼する。

稲子湯への道は雪道で山中に入ってゆくと周辺の木々も樹氷となり、積雪も多くなる。

出迎え車で稲子湯の上、みどり池登山口まで 13:30 登山口 13:50 発

しらびそ小屋着 15:30 分着 宿泊一泊二食7,800円 送迎車代@800円

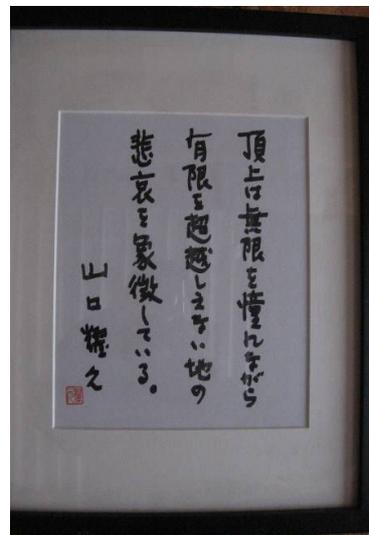
小屋は昭和20年頃からの小屋を建て増しし現在に至る。小屋にはラッキー(盲目)チツチという2匹の犬が居る。丁度女将さんがチツチを連れて麓に下るところで他に客はいない。

シラビソ小屋は森の中に立つメルヘンチックな良い小屋である。何年か前NHKドキュメンタリーで放映していたものを見てその映像が素晴らしく一度雪の時期に訪れたいと思っていたもので今回実現する事が出来た。夜半からは雪となり結構冷え込んだ。

小屋には、北八ヶ岳を広く世に紹介した独標登高会の山口耀久氏の色紙がひっそりと飾れていたのが印象に残る。



(しらびそ小屋)



(山口耀久氏 色紙)

2/17日(水) 高曇り 気温-26度

小屋7:15 発-9:15 中山峠9:25-10:20 天狗岳10:30- 11:05 中山峠
11:15-12:07 しらびそ小屋13:00-13:45 みどり池登山口



(稲子岳南壁)

前日降った雪でトレースはかすかに見て取れたが、踝くらいラッセル中山峠までは樹氷の中を進む

起伏は余りないが、稲子の南壁を見上げる場所辺りから雪も深くなり、中山峠への詰め登りは雪壁となっていた(夏場は鎖場)。

オーダーは、松井清、砂川、石川の順で、松井、砂川両氏は、昔を髣髴とさせる行動力で頑張っていたのには驚いた。

雪道を歩くのも雪のこなし方も冬山の技術は劣ってなかった。私は、久しく山から遠ざかっている自分の体重を移動させるのに汗をかく。何もかもが凍りついた稜線は、冷たい風にさらされ、手袋を脱げば冷たく凍傷になるような痛みである。



(硫黄岳爆裂口・赤岳・阿弥陀岳を望む)



(凍る天狗岳)



(中山峠にて)

周囲を見渡せば北は、白馬から穂高、乗鞍、御岳、浅間山、阿弥陀、硫黄岳、編笠など360度スッキリとは行かないが見通す事が出来た。

凍てついた頂上では、早々に写真を撮り長居は無用と一気に中山峠まで、途中で登山者に出会ったのは、女性登山者2人組み、空荷のおじさん2人単独の青年1人、皆黒百合ヒュッテからのピストンでしらびそから上る人はいなかった。

途中天狗岩からの下りが薄い雪で、安全を期して後ろ向きで下ったが彼ら二人は、そのまま下りたいものだ后感心する。樹林帯に逃げ込めば、後は来た道のトレースを辿りながら小屋へ



(中山峠直下雪を掻き分けて)

親父さんは、もっと遅くなるのかと思っていたようであまりに早い下山に驚いていた。もっともこちらも二人にあおられて汗をかきながらのくだりで、飛ばすに書いてゆくのがやっと。

今回の山行で永年一度は訪問したいと思っていた小屋に、若い頃一緒に山に登った仲間と同行する事が出来てよかったと思って感謝している。

帰りも松原湖までの送りの車を頼み途中は奥さん運転で、素晴らしい樹氷の中を走り、車を置いてある駅構内へ。途中鹿の湯（鉱泉13度の沸かし湯、入浴料550円）という日帰り温泉に入り、一路帰宅した。久しぶりの冬山に翌日足は筋肉痛である。



(樹 氷)



(みどり池からの天狗岳遠望)



(高齢者登山家集団)